

News Release



令和8年7月2日

各報道機関文教担当記者 様

2025 GakuNin RDM User of the Yearを受賞 研究データを安全かつ速やかに社会に生かす仕組みづくりが評価

金沢大学は、このたび「2025 GakuNin RDM User of the Year」を受賞しました。この賞は、研究データを適切に管理・共有する仕組み「GakuNin RDM」(※1)を活用し、円滑で適切な研究データマネジメント体制の構築や、地域・コミュニティをまたぐオープンサイエンス(※2)の推進に顕著な成果を挙げた機関を、国立情報学研究所(NII)の研究データ基盤運営委員会が表彰するものです。本賞は昨年度に創設されたもので、本学は2機関目の受賞です。

本学は、学術メディア創成センターを中心に、早期から研究データ基盤の整備に取り組んできました。令和7年からは研究データ管理から論文のオープンアクセスまでを一気通貫に手続きできる「オープンサイエンスシステム」の運用を開始するとともに、GakuNin RDMの利用状況の可視化と研究データの適切な保守管理、さらには将来の研究計画の立案にも役立てる体制を構築しました。

さらに、本学は「北陸研究データ基盤コンソーシアム」の設立・運営を主導し、実効性のある研究データポリシーの策定や、周辺大学への啓発活動により、研究データ利用の裾野拡大に貢献してきました。また、コアファシリティの共用機器とGakuNin RDMを連携させた学内外へのデータ提供や、研究データの長期保存技術の検証にも取り組むなど、学内外をつなぐ持続可能な研究データ基盤の構築とオープンサイエンスの推進に幅広く貢献した点が高く評価されました。

については、本件の取材・報道をよろしくお願ひします。

※1 GakuNin RDM(研究データ管理基盤)とは

国立情報学研究所(NII)が提供する研究データ管理サービスであり、大学や研究機関が研究データを安全に保存・共有し、活用するためのクラウド型研究データ基盤です。変更履歴の記録機能により、紛失や改ざんなどのリスクに備え、研究の透明性と信頼性を確保するとともに、研究成果の再現性向上やオープンサイエンスの実現に貢献しています。

※2 オープンサイエンスとは

研究成果やデータを広く公開し、企業や他分野の研究者、一般の人々も活用できるようにする考え方です。これにより、研究の透明性と信頼性が高まり、既存データを活用した研究の効率化が促進され、研究成果の社会実装が加速し、社会課題の解決や新たな価値創出につながります。

【本件に関するお問い合わせ先】

■受賞内容に関すること

金沢大学学術メディア創成センター 教授 笠原 禎也(かさはら よしや)

TEL: 076-234-4952 E-mail: kasahara@staff.kanazawa-u.ac.jp

■広報に関すること

金沢大学総務部総務課 副課長(情報推進担当) 辻谷 友紀(つじや ゆうき)

TEL: 076-264-5086 E-mail: jyosui@adm.kanazawa-u.ac.jp